2023.06.01.　木曜礼拝「私の心を主から遠ざけるもの」
エゼキエル 14 章＆聖餐式
JD ファラグ牧師

アーメン、アーメン。感謝します。共に祈りましょう。主よ、感謝します。それが真実であるように、主よ、私たちの堅い岩であるあなたの上に立つことができるように祈ります。今晩ここに集まり、あなたの御言葉を掘り下げていく時、私たちの生活の中で、その土台を固めてください。私たちはただ、あなたに全面的に、完全に頼ることができますように。主よ、私たちはあなたに信頼します。今晩、私たちにお語り下さい。私たちが共に集えるこの時間を本当に感謝します。この時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン、アーメン。こんばんは。ようこそ。着席する前に、まだ聖餐セットをお持ちでない方は、取りに来てください。聖書学びが終わったら、一緒に聖餐式に与かれるように準備しておきましょう。オンラインの皆さんも、共に与かる方は準備しておくとよいでしょう。その間に、お知らせしたいのは、来週の火曜日、6 月 6 日の夜 7 時から 8 時半まで祈り会があります。今回の祈り会では、少し変わったことを

やってみようと思います。祈りに関することを簡単にお伝えします。祈りたい人のために祈りのリストを用意し、祈りを依頼してきた人たちのために執り成しをすることに変わりはありません。ですから、祈りのリストは用いますが、祈りについて少し話した後、祈れるように開放したいと思います。想像してみてください。祈り会で、祈ることを。ただ、聖霊が導かれるままに。火曜日の夜、私たちの祈り会に

参加することをお勧めしたいと思います。今夜は、エゼキエル 14 章です。1 章、興味深い章です。その前に、前置きのようなものですが、この章は、神の御言葉の中で、私たちが神の御心を理解するのに適した章の一つです。そうでないと、この件に関する神の御心を誤解してしまいます。本当にそういうことなのです。なぜなら、神は預言者エゼキエルを通して、心の問題に関して、問題の核心に迫っておられるからです。なかなかうまいこと言いましたよね？　いや本当に、私自身、かなり感心しましたね。その核心とは何でしょう？　問題の核心は、自分の心を主から遠ざけるものに関するものです。これが、神の御心です。神は私たちの心を求めておられます。私たちを取り戻したいと思っておられます。これからわかることは、民は今、主に対して、主から心が離れてしまっていたことです。非常に深刻です。というのも、彼らは神と駆け引きをしていて、神は駆け引きをしようとする者と駆け引きはされません。神は彼らの心を知っておられ、彼らの心を求めておられます。彼らの心をつかみ、ご自分のもとに連れ戻したいと思っておられます。それが問題の核心です。さて、またかなり激しくなります。この章の学びや教えの前置きとして、神の御心は、私たちの心を求めておられるということを理解しておきたいのです。神は彼らの心をつかんでおられません。何が彼らの心をつかんでいるのか？　偶像礼拝です。それがこれから見ていくことです。では、神は彼らの心を取り戻したいので、どうされるのでしょうか？これはまた、非常に...「醜い」という言葉を使いましょう。本当に醜いです。非常に醜いです。「醜い」と言いましたか？

醜いことになりそうです。では、それを踏まえて、祈りましょう。お父さま、あなたの御言葉に感謝します。特に、今夜目の前にあるこの章に感謝します。この章には理由があります。主よ、私たちはあなたの御心を垣間見るようなものです。その理由は、最後に見ることになるのですが、ある意味、驚きの

結末です。これは私たちをあなたのもとに戻すためであり、あなたから距離を置き、心が離れているあなたの民をあなたのもとに近づけるためです。そうすると、ヤコブが語ったように、あなたは私たちに近づいてくださいます。ですから主よ、私たちにお語り下さい。これは難しく、確かに教えるのは難しく、聞くのも難しいですが、私たちにはこれが必要です。私たちは聞く耳を持ちたいです。お語り下さい。イエスの御名によって、アーメン。
では取り掛かりましょう。1 節。
ーエゼキエル　14:1ー
イスラエルの長老たちの何人かが来て、私の前に座った。
さて、思い出してください。エゼキエルは自分の家に戻って来ました。どうやら、彼は（イスラエルの）テルアヴィヴではなく、ケバル川近くのテルアビブに家があるようです。ですから、彼には家があります。そして今度は、長老たちがやってきて、彼の家で一緒に座ることになったと書かれています。
ーエゼキエル　14:2ー
そのとき、私に次のような主のことばがあった。
ーエゼキエル　14:3ー
「人の子よ。これらの者たちは自分たちの偶像を心の中に秘め、自分たちを不義に引き込むものを、顔の前に置いている。わたしは、どうして彼らに応じられるだろうか。
さて、最初の 3 節、素晴らしいスタートを切りましたね。ここで、何が起こっているんでしょう？　神はエゼキエルに、なぜ彼らが自分の家にいるのかを、知らせておられるのだと言えるかもしれません。神はエゼキエルに彼らの心を垣間見せておられます。神は彼らの心を見ておられるからです。エゼキエルには分かりません。彼はただ、自分のリビングルームのソファに座っている彼らを見ているだけです。彼らは理由があってそこにいます。彼らは主に求め、尋ねたいのですが、しかし主はエゼキエルの前を行き、彼に警告を与えているような感じです。
「この者たちは、遊んでいる。彼らの心は、わたしから遠く離れている。わたしは彼らの心に何があるのか見ています。彼らの心にあるものを、あなたにも見てもらいたい。」
彼らの心の中にあるものは？　偶像礼拝です。ほら、彼らは偶像をエルサレムに置いていかなければなりませんでした。彼らの偶像はエルサレムにあるかもしれませんが、彼らの心にはまだ偶像礼拝があります。この機会に、偶像礼拝とは何かということを、単純化し過ぎない程度に再定義しておくとよいかもしれません。偶像とは何でしょうか？　私たちの心の中で、神の代わりとなるものすべてです。それは、私たちの献身、愛情、注意、愛を注いでいるあらゆるもの、または人でもありえます。それが偶像礼拝です。それは誰かである場合も、何かである場合もあります。しかし、それがある物、ある人であるべきではなく、主であるべきです。だから今、主はもはや心の中に、生活の中心に、献身と愛情の中心にいません。あれや、彼らが中心にいます。それが偶像礼拝です。私たちの心の中で神の代わりとなるもの、それが偶像、偶像礼拝です。神は今、エゼキエルを備えておられます。
「この者たちがここにいて、あなたの家にいます。彼らは理由があってここにいます。彼らはあなたに、わたしのことばを求めるでしょう。彼らはわたしに尋ねるように求め、主は何と言っておられるかと尋ねます。彼らの心は正しくありません。この者たちは、心の中に偶像を置いています。これが不義につまずく原因になっています。」
ここで修辞的な問いかけがあります。「なぜわたしは気にかけなければならないのか？」「彼らはわたし

に尋ねようとしている。なぜ、わたしが彼らに自分のことを尋ねられなければならないのか。わたしに尋ねたいのですか？　なぜ自分の偶像に尋ねないのか？　ああ、気にしないでください。出来ないのです。
それらは何と言いますか？　あなたの偶像、神々は愚かです。話しません。実際には、それらはあなたのために何もできず、あなたの世話はできません。あなたがそれらの世話をしなければなりません。」
自分の神の世話をしなければならないなんて、困ったものです。それが彼らのしていたことです。物理的な偶像、つまり木製の偶像を作り、それらが偶像礼拝の対象となりました。今は持っていませんが、心の中にはまだ存在しているのです。
「どうしてわたしが気にしなければならないのだろうか？　なぜ、わたしが彼らに尋ねられなければならないのか？」
「では、エゼキエルよ、彼らは尋ねることは出来ますが、わたしが語ることを好まないでしょう。では、こうしてみましょう。」4 節。
ーエゼキエル　14:4ー
それゆえ、彼らに告げて、こう言え。『神である主はこう言われる。心の中に偶像を秘めて、不義に引き込むものを自分の顔の前に置きながら、預言者のところに来るすべてのイスラエルの家の者には、その偶像の多さに応じて、主であるわたしが答える。
ここを見逃さないでください。
ーエゼキエル　14:5ー
こうして、…イスラエルの家の心を、わたしがとらえる。』
「わたしは彼らの心をつかむ。わたしは彼らの心をとらえる。彼らの心をしっかりと掴む。」なぜでしょう？
…偶像のゆえにみなわたしから離されてしまった…
「彼らの偶像は、わたしから彼らの心を取り、奪っている。わたしは彼らの心をわたしのもとに取り戻したい。それがわたしが行うことであり、答え方です。あなたはわたしに尋ねたいのですね？　わかりました、わたしに尋ねればいい。わたしはあなたの問に答えよう。わたしは来る者に答えましょう。わたしの答えは、彼らの偶像、偶像礼拝の多さに応じたものです。これがわたしが行うことです。わたしは彼らの心を取り戻します。彼らの心がわたしから遠く離れているから。」
少し補足させてください。これまで何度も話してきたことです。このことを理解することが重要です。私たちの人生における真の判断基準は、あれやこれ、ある人や物、何かあるいは誰かが、私を主から遠ざけるのか、主に近づけるのか、ということです。それが究極のテストです。言ってみれば、それが目安です。
神は預言者エゼキエルを通して、神に尋ねる人々についてこのように語っておられます。
「あなたはわたしから距離を置いている。誰があなたをわたしから遠ざけたのか？　あなたの偶像です。あなたの心の中の偶像礼拝は、あなたの心をわたしに近づけるのではなく、わたしから遠ざけてしまった。あなたの心はわたしから遠く離れている。」
ああ、外見上は？　違います。「イザヤ書 29 章 13 節」にある、当時の人々の言葉を聞いてください。
ーイザヤ　29:13ー
主は言われた。「それは、この民が…（注目下さい）**口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、**

…「主を称えます！」と。…（しかし）その心がわたしから遠く離れているからだ。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことである。
パリサイ派の人々について、イエスは 「マタイ 15 章 8～9 節」でこう言われました。パリサイ派の人々について、イエスは「マタイ 15 章 8～9 節」でこう言われました。
ーマタイ　15:8ー
『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。
ーマタイ　15:9ー
彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。』」
私も含めて、もっと身近なところから話をさせてください。こんな感じなんです。あなたは礼拝をしていて、歌の歌詞を知っています。カポノが賛美をリードしています。あなたは唇では歌っていますが、しかし、あなたの心は近くになく、どこにも見つからない。あなたの心はどこか？　主から遠く離れています。ああ、でも外見上は、主を賛美しています。そう、唇で、口で、言葉では。でも、心は違います。言葉と心の間にあるズレ。この 2 つの間には大きな隔たりがあります。
「ああ、そう、あなたは唇で、外見的にはわたしを敬うかもしれないが、ここで問題なのは、わたしは心を見ます。」人は外見を見ます。「彼らの賛美を見て」「聖書を見て。わお！　大きな聖書ですね。」もしくは、使い古された聖書。「ほ～！彼らは御言葉に浸っているに違いない。」それは、外見的なものです。しかし、神は心を見られます。「わたしから遠く離れている。」「わたしから距離を置いている。わたしは彼らを取り戻したい。彼らを取り戻します。」
ーエゼキエル　14:6ー
それゆえ、イスラエルの家に言え。『神である主はこう言われる。立ち返れ。…
ーエゼキエル　14:6ー
それゆえ、イスラエルの家に言え。『神である主はこう言われる。立ち返れ。あなたがたのすべての偶像から身を翻せ。すべての忌み嫌うべきものをあなたがたの前から遠ざけよ。
それが「悔い改め」という言葉の意味です。１８０度戻り、向きを変え、立ち返ること。それは考えを変えることです。方向を変えることです。ここであなたは、この方向へ進んでいて、
「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」（箴言　14:12）
向きを変え、悔い改めなさい。これは救いのためではありません。これは、神の民である人たちのためです。「悔い改め、戻って来なさい。方向を変え、わたしのもとに帰って来なさい。そこから離れ、わたしに立ち返りなさい。」
ーエゼキエル　14:7ー
イスラエルの家の者でも、イスラエルに寄留している者でも、だれでもわたしから離れ、…
ここで止めます。彼らは自分たち以外を責めることはできません。自分たちでしたことです。自分たちで何をしたのでしょう？　彼らは主から自分を切り離しました。どうやったのでしょうか？　ああ、書かれています。
…心の中に偶像を秘めて、自分を不義に引き込むものを顔の前に置きながら、わたしに尋ねようと預言者のところに来る者には、主であるわたし自身が答える。
「あなたは本当にこれをしているのですか？　わたしを騙せると思っているのですか？　あなたはわたしのもとに来て、わたしに尋ねます。気づいていますか？　わたしはあなたの心を見ています。そうや

ってわたしのところに来て、わたしに尋ねるのですか？　分かりました、わたしはあなたに答えましょう。実際に、わたしが個人的に答えましょう。」「わたしが答える」と言われた時、大変なことになります。「あなたの電話や質問を他の人に返してもらうつもりはありません。わたしがこれを引き受けます。主であるわたしが、わたし自身が彼に答えましょう。」
では、あなたの答えは何でしょうか？　8節。
ーエゼキエル　14:8ー
わたしはそのような者に敵対してわたしの顔を向け、彼をしるしとし、語りぐさとして、わたしの民の間から絶ち滅ぼす。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
ーエゼキエル　14:9ー
もし預言者が惑わされてことばを語るなら、主であるわたしがその預言者を惑わしたのである。わたしはその者に手を伸ばして、わたしの民イスラエルのうちから根絶やしにする。
お付き合いください。10節。これは、すごいです。
ーエゼキエル　14:10ー
このような者たちは自分の咎を負う。その預言者の咎と、尋ね求めた者の咎は同じである。
ーエゼキエル　14:11ー
こうしてイスラエルの家は、もうわたしから迷い出ることはなく、重ねて自分たちの背きによって自分自身を汚すことはなくなる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる――神である主のことば。』」
「あなたを取り戻したい。あなたはわたしのものです。あなたの心はわたしから遠く離れている。あなたはわたしから外れてしまった。だからわたしは、預言者、偽預言者を捕らえる。」
「私はセカンドオピニオンを受けようと思います。エゼキエルの答えが気に入らない。」
「エゼキエルは主に尋ねたとき、何と言ったのですか？」「彼は、『悔い改めなさい』と言いました。」
「じゃあ、別の預言者を探そう。」いや、それではどうにもなりません、なぜなら神はすでに…　神は、あなたがセカンドオピニオンを求めて行く偽預言者をすでに知っておられます。
「その答えが気に入らないので、第二の預言者の意見を聞いてみよう。あっちの預言者のところへ行こう。」神が知っておられないとでも？　神はこう言われます。
「分かりました、彼らのところへ行くのですね？　同じ答えを返しますが、こちらの方がもっとひどいことになります。あなたは彼らのもとへ行くのですね？　わたしはその預言者を誘導し、その預言者に尋ねたあなたと同じように、その預言者を罪に定めます。どうですか？」
さて、どうでしょう…これをただただ、すごいと思うのは私だけでしょうか？　気づきましたか？　この言葉、好きではありません。「罰」待ってください、彼らはその咎を負うのですか？　預言者の罰/咎は、尋ねた者の罰/咎と同じであるべきなのですか？　分かりましたか？
「あなたはこの預言者のセカンドオピニオンを受けに行くのですね。では、偽りを語るこの預言者を通して、わたしはあなたに語りましょう。彼を誘導し、そして彼に責任を負わせます。わたしは彼を罰し、同じように、彼に尋ねたあなたを罰します。ええ、そうは考えていませんでしたが…　12節。
ーエゼキエル　14:12ー
次のような主のことばが私にあった。
ーエゼキエル　14:13ー

「人の子よ。国が、わたしに対して罪あるものとなって信頼を裏切り、…
少し戻ってもいいでしょうか？　すみません、許してください。このまま進めません、今夜眠れなくなるので。ここが隔たりが生まれるところです。こんな感じです。
「ああ、私は絶対にそんなことしない」私たちはいつもやっています。「まあ、今日の教えは特に気になりませんでした。」おぉ…？！　それは面白いです。「私は、この通りを歩いて、自分の耳が聞きたいことを教えてくれる人を探します。」
神は、「ああ、そうですか、すでにその住所は知っています。それが誰なのか、よく分かっています。わかりました。どうぞ。」あなたは行き、彼はあなたにこう伝えます。主はすでにこの偽教師を誘導しておられます。偽預言者ではなく、偽教師です、彼らは偽教師です。ところで、主は彼らを無罪にすることはありません。尋ねにきた人と同罪です。
「この人の話を聞いてみよう。もしかしたら、もっと友好的かもしれない。もっと妥当なことかもしれない。だって、私はあの男が気に入らないから。彼は私が罪びとだと言い、悔い改める必要があると言っている。いや、別の人を見つけよう。」おお、そうですか。少し気分が良くなりました。おそらくこのファイルを閉じることができると思います。では、12 節を始めましょう。大丈夫ですか？　私を甘やかしてくれてありがとうございます。これで今夜は少し眠れそうです。
ーエゼキエル　14:12ー
次のような主のことばが私にあった。
ーエゼキエル　14:13ー
「人の子よ。国が、わたしに対して罪あるものとなって…
この 2 つの言葉がキーポイントになるので、特に注意してください。
…信頼を裏切り（根強い不誠実さ）**、そのためわたしがその国に手を伸ばし、そこのパンの蓄えをなくし、その国に飢饉を送り、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、**
14 節に行く前に、私の話を聞いてください。これは、私たちが罪を犯し、告白し、悔い改め、赦されることを話しているのではありません。いいえ、これは意図的な不服従であり、根強い不誠実さです。それは、罪のある生き方です。意図的なものです。その罪に執着することです。これはそういう話です。この件で、敵が仕掛けてくるようなことがないように。敵はあなたをやりこめ、非難するからです。
「ああ、お前は失敗した。」いや、これはそういう話ではありません。これは、故意に背き、しつこく不誠実な行為をすることです。それは、罪の生活習慣です。それが神がここで扱っておられることです。さて、これで少しは 14 節の魅力が伝わると思います。
ーエゼキエル　14:14ー
たとえ、そこにノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ　――神である主のことば――。
え～？？　ちょっと待ってください。なるほど、まずダニエルが、ノアやヨブと一緒に入っています。ノアのような人物、正しい伝道者であり、義人であり、神の人でした。そしてヨブ？　義について話したいですか？　ヨブという正しい神の人は、あまりに正しいので、サタンは神と賭けをして、「彼がこんなにまっすぐで正しいのは、あなたが彼を祝福しているからだ」と言いました。
「彼を私に渡してください。彼はあなたの顔に向かってあなたを呪うでしょう。」
神は言われます。「いいでしょう。」神は初めから終わりをご存じだからです。 そうでなければ、神はヨ

ブに触れることすら許されなかったでしょう。つまり、悪魔がヨブに触れることを。ダニエルはエゼキエルから数キロ離れたところにいます。ダニエルはエゼキエルやエレミヤとも同じ時代の人です。もし私がダニエルで、知らせが来たら、これはメールやテキスト以前の話ですが、
「やぁ、エゼキエルがあなたのことをツイートしたことを聞いた？　ダニエルとノアとヨブをハッシュタグにして。」「私を？何で？？」「ええ、民はとても邪悪で、とても深刻で、あなたやノアやヨブがこの土地にいたとしても、その正しさによって、彼ら自身を救い出すだけだと、神はエゼキエルに言われたそうです。」「エゼキエルは私をそのリストに入れたんですか？」分かりません、お許しいただきたいですが、もし私がエゼキエルだったら、こう思うでしょう。
「わ～！私の兄弟のダニエルは入っているのに、私は入っていない。」ー（笑）ー　ほら、皆さんも同じことをするでしょう。もし私がエゼキエルなら、むしろこうします。
「ノア、ダニエル、エゼキエルも、そしてヨブも。」でも彼は…いや、「ダニエル」それが何を物語るかおわかりでしょうか。この時すでに、ダニエルは神の人、正しい人として知られていました。神は基本的にこう言っておられます。
「たとえ彼らがどんなに正しくても、わたしはこの地を滅ぼします。わたしは彼らを救い出しますが、惜しむことはありません。」
アブラハムがソドムとゴモラについて神に懇願したときのことを覚えていますか？（創世記 18 参照）
「神よ、もし 50 人の義人がいたら、裁きを下す御手を止めてくださいますか？」「ええ、50 人の義人のためにそうしましょう。」50 人もいませんでした。そこで、だんだん数を下げていきます。もし、その人数の義人がそこにいたなら、主は裁きを下されなかったという意味です。ここで主が何とおっしゃっているかわかりますか？
「そこに誰がいるか、何人義人がいるのか関係ありません。わたしはその義人たちを救い出しますが、裁きは来ます。」
これは鳥肌ものですよね。それくらい深刻な問題です。そうである必要があります。偶像礼拝は…　どう言ったらいいでしょうか。偶像礼拝の理不尽さ。そのレベルにまで上がっていて…つまり、ノアやヨブの話をし始めたら？　ヨブは私のリストの一番上にあります。おそらく皆さんもそうでしょう。もし、私が義人の頂点に立つような人物を挙げるとすれば、それは間違いなくヨブでしょう。ヨブが経験したすべてのことがあっても、彼は神を呪うことはありませんでした。ヨブだけでもいいと思うでしょう。しかし、ヨブもダメ、 ノアでもダニエルでも無理なのです。「わたしは彼らを救い出しますが、彼らだけです。」
ーエゼキエル　14:15ー
もし、その国にわたしが悪い獣を行き巡らせ、…
これは実際の話です。これから 4 つ出てきますが、これらは実現するのが最も恐ろしく、悲惨なことだと考えられます。神はその一つひとつで打たれます。
ーエゼキエル　14:15ー
もし、その国にわたしが悪い獣を行き巡らせ、それを不毛にし、荒れ果てさせ、獣ゆえに通り過ぎる者もいなくなるなら、
ーエゼキエル　14:16ー
たとえ、その中にこれら三人の者がいても――　わたしは生きている。神である主のことば――

彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出され、その地は荒れ果てる。
「もしノアやヨブやダニエルがいても、ということですか？」「そうです。」
ーエゼキエル　14:17ー
あるいは、わたしがその地の上に剣をもたらし、『剣よ、この地を行き巡れ』と言って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、
ーエゼキエル　14:18ー
たとえ、その地にこれら三人の者がいても――　わたしは生きている。神である主のことば――　彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出される。
あるいは...19 節。大丈夫ですか？あと 2 つほどあります。
ーエゼキエル　14:19ー
あるいは、わたしがその地に疫病を送って、…
エジプトで起きたような災いです。それは聖餐式のお祝いに結びついてきます。ただ、十分な時間を取りたいと思います。今まで見たことのないものがあり、それを皆さんと分かち合いたいからです。特に、あなたが恐怖を感じやすく、不安や心配、思い悩み、恐れを抱きやすい人であれば、それは大きなことです。彼らはこれを恐れたことでしょう。これは、他のものと並んで最も恐れられていたことでしょう。
...わたしがその地に疫病を送って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすために、流血をもってわたしの憤りをその地に注ぐとき、
ーエゼキエル　14:20ー
たとえ、そこにノアとダニエルとヨブがいても　――わたしは生きている。神である主のことば　――彼らは決して息子も娘も救い出すことはできない。彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ。」
ーエゼキエル　14:21ー
まことに、神である主はこう言われる。「人や家畜を絶ち滅ぼすために、わたしが剣と飢饉と悪い獣と疫病の、四つのひどい刑罰をエルサレムに送るとき、
...しかし、ああ、「しかし/yet」という言葉を見たいと思ったことはないです。22 節。「しかし...」
これが神の御心であり、私がこの章をこのように前置きしたかった理由です。
ーエゼキエル　14:22ー
見よ。そこに逃れの者が残っていて、息子や娘たちを連れ出し、あなたがたのところにやって来る。…
「それがわたしの心です」注目下さい。
...あなたがたは彼らの生き方と行いを見て、わたしがエルサレムにもたらしたわざわいと、わたしがそこにもたらしたことすべてについて、慰めを受ける。
聖餐式に結びつく最後の 23 節に行く前に、2 つのことに注目してください。
1 つ目。「あなたは彼らの生き方を知ります。わたしの道ではありません。」神の道は高すぎて理解できないからです。神の道は私たちの道と異なります。（イザヤ　55:8 参照）しかし、ここで焦点はそこではありません。焦点は彼らの道/生き方です。私たちは、神のご方法と理由を問います。いや本当は、問題は神の道、神の理由ではなく、あなたの生き方です。23 節に注目下さい。
ーエゼキエル　14:23ー

あなたがたは、彼らの生き方と行いとを見て慰められる。…
それがどうやって私を慰めるのですか？　ところで、「彼ら」とは誰ですか？　彼らは、最終的にエルサレムが破壊された後、3 回目の最後の包囲でバビロンに捕虜として連れて行かれることになる人々です。ここまでで包囲されたのは 2 回、捕虜になったのは 2 組だけです。1 回目に、最高の人材を連れて行きました。それがダニエルとエゼキエルが捕らえられた時です。バビロンは最高のものを連れて行きます。彼らが連れて行ったのはそういう人々です。だからこそ、ダニエルは…彼らはダニエルが独特で特別であることを知っていました。だから、彼は最終的にあのような地位につきます。繰り返しますが、どうでしょう、もし私がエゼキエルだったら、こう考えたでしょう。「それが自分だったらな…、でも違うんだ。」
とにかく。しかし、ダニエルは配置されました。彼は最初に連れて行かれた人です。では、彼らの生き方を見て、誰が私を慰めてくれるのでしょう？「破壊されたばかりのエルサレムから彼らはやって来ます。彼らや彼らの生き方を見たとき、あなたは慰めを得ることになります。」それがどう慰めになるのでしょう？「なぜなら、そのときあなたは、わたしが言ったことをわたしが行ったのだと悟るからです。彼らはその証人となります。なぜならこの時点まで、この第三の捕囚グループが捕虜になるまでの間、そしてエルサレムが破壊されるまでの間、彼らはまだこう考えていました。「私たちは帰れる」「エルサレムが破壊されることはない。神は決してご自分の神殿、ご自分の民に対して、そんなことなさらない。これは神の神殿です。神はそんなことが起きるのを許されない。」おお、本当ですか？　彼らは彼らのことを知っています。「ああ、叔父が、3 度目に連れて来られた。」エルサレムは破壊されました。「叔父さん、叔母さん、何があったのですか？」「ああ、なんと…すべて破壊されてしまった。」あなたが彼らの生き方と行いを見る時、
…このとき、あなたがたは、わたしがそこでしたすべてのことは、理由もなくしたのではないことを知る
――神である主のことば。」
少し言葉足らずな感じがしますよね。理由があります。ここで神が何と言っておられるか分かりますか？　こう言われます。「わたしは自分が行うと言ったことを行いました。わたしがしたことは、理由があってしたことです。それをすることに目的があったからです。その目的とは、あなたを取り戻すため、あなたの心をわたしのもとへ取り戻すためです。」
バビロンでの 70 年間の捕囚の後、イスラエルは二度と偶像礼拝を扱わなかったことをご存知ですか？
効果がありました。うまくいきました。それによって、彼らの偶像礼拝の問題が治ったのです。つまり、ここで神が言っておられるのは、「わたしがしたことは、理由を持ってしたことなので、あなたは慰められます。わたしは理由なしに何もしません。わたしが行うことには目的があり、それはあなたの最善の益となります。わたしはあなたの最善を考えています。これはあなたのためにしています。あなたを愛しているからです。」それに対して、私たちはたいてい、「そんなに愛さないでください」ー（笑）ー
それは、子どもをしつけるときと同じですよね。「あなたを愛しているから、こうするのよ。」「そうなの？」
「これはあなたを傷つけるよりも私を傷つけることになるの。」子どもたちが本当にそう信じると思いますか？「いや、わたしはこうしなければなりません。」「理由なしには何もしません。これがわたしがしていることの理由です。」さて、なぜそれが、私に慰めをもたらすのでしょうか？　神がなさってい

ることをされるのは、私を愛しておられるからです。主がこれをなさるのには理由があられ、主は私を愛しておられるからです。主は私がご自分のもとに戻って来ることを望んでおられます。もしこれが必要なことであるなら、必要なことなのです。神は理由もなく、何かをなさることはありません。それは最終的に私たちの益を第一に考え、最終的には主のご栄光のためです。その間が一番難しいですよね？私たちはその理由を理解していないからです。「神様、なぜですか？」「あなたにはわたしがしていることが分かりません。わたしは理由があってこれをしています。理由なしに何もしないからです。わたしは自分がしていることを分かっています。わたしがしていることには、理由があり、目的があります。」私たちの時代では、それを見て、こう言うでしょう。「ええ、私には理由があり、目的があります。私はこの目的の一部です。」それが神が言っておられることです。「わたしには理由があります。」「理由は何ですか？」「あなたです。これがわたしがこれを行う理由です。」考えてみれば、もし神が私たちを愛しておられないなら、わざわざこんなことされないでしょう？「ええ、気にしません。」違います。「わたしはあなたを愛しています。だからこそ、わたしはこれをしています。あなたがわたしの理由/原因です。」

これはどうでしょう？「あなたがわたしの理由/原因です。」自分が原因になるのはどうでしょう？

あまりいい印象はないですよね？「ああ、私が原因なんです…」「ええ、そうです。あなたが原因です。」神は理由なくして何もなさいません。しかし、神はそれをなさいます。また、表現にも注目してください。なんだか面白いです。「あなたがたは、わたしがそこでしたすべてのことは、理由もなくしたのではないことを知る。」

なぜ神は、「あなたがたは、わたしのすることにはすべて理由があることを知る」と言われなかったのでしょうか。なぜなら、それは私たちの考え方とは違うからです。私たちがどう考えるかというと、神は理由なく物事を行うということです。神がそうなさる理由がないからこそ、私たちは疑問を持ちます。疑問が湧いてきます。「神さま、私にはあなたの原因が何か分かりません。あなたの目的が分かりません。あなたの理由が分かりません。あなたのご方法が分かりません。私にはなぜか理解できず、あなたのご方法が分かりません。あなたは何をしておられるのですか、なぜそうなさっているのですか？」

「ええ、わたしは自分のしていることが分かっています。なぜこうするのかもわかっています。」「わたしにはあなたがなぜそれをなさるのか分かりません。」「あなたはなぜか分かるでしょう。最後には理由が分かります。そして、あなたは大きな慰めを得るでしょう。」そのすべてが、この結末に至るまで必要だったということに注目してください、なぜなら、これはそれほど遠くない、まだ将来のことだからです。14 章が記録された時期は、実際に起こった時期より 2、3 年先かもしれません。注目していただきたいのですが、では戻ってみましょう、戻るんですか？　すごい、あと少しで終わるのに。　ー（笑）ー　またこのキーワード「yet/まだ」「まだ将来のこと」

「Yet/しかし、見よ。そこに逃れの者が残っていて…」（エゼキエル　14:22）

つまり、「わたしがエルサレムに理由があってもたらす、すべての災いがやってきます。…」「でも、」「見よ。」「しかし、」もしかしたら、こんな風に見たり、こんな風に言ったりするのかもしれません。

「これは酷いと分かっています、しかし/yet、神がそれを解決されます。」「これから起こることは恐ろしく見えます。しかし/yet、神は必ず備えてくださる。」ご自分で空欄を埋めてみてください。かなり肝心な言葉ですよね。「しかし/Ye t 」？　流れを変える言葉の一つです。それはすべての様相を変えます。神が「しかし、」と言われる時、「しかし、この厳しい 4 つの裁きの後に…」ところで、よく言われる

「黙示録の四騎士」です。（黙示録 6 参照）
これから起こる恐怖、最も恐れられていることが彼らに襲いかかりますが、しかし…
「しかし、わたしには残された者がいます。あなたがたを連れ戻します。わたしはあなたがたを”連れ出します”。」（22 節）逃れの者が残っていて、息子や娘たちを”連れ出し”…「わたしはあなたがたを連れ出します。」（22 節）…あなたがたのところにやって来る。「出す」という言葉を覚えておいてください。これは今、いい言葉だと思います。私たちは出たいんです。そうですね？
日曜日の聖書預言アップデートでは、神はイスラエル人をエジプトから脱出させますが、その前にイスラエル人からエジプトを脱出させなければならないという点と点をつないでいました。
では、どうするのでしょうか？　災いがそれをします。日曜日に話したように、私はその最初の災いの後に…いや、実際には最初のものではありません。私が脱出したく、出たくなるものが分かりますか？カエルです。ファラグではありません、フロッグ（カエル）です。それだけで、私は出ます。ここから出してくれ！　カエルは 2 番目の災いだったと思います。あと 8 つもあります。
「私は出たいです」「わたしがあなたを脱出させます。しかし、わたしはあなたをエジプトから脱出させる前に、あなたからエジプトを脱出させなければなりません。」
10 番目の災いに早送りし、聖餐式に入ります。これは…今まで見たことがありません。お付き合いください。それは過越しです。十字架の形をした子羊の血の覆いがあれば、死の御使いはあなたの家の上を過越します。彼らは子羊の体を食べました。そして、彼らは出て行く準備をしなければなりませんでした。この 3 つです。それらはすべて、私たちが親しみを込めて「最後の晩餐」と呼んでいる記述の中に、美しく、壮大に織り込まれています。もしよろしければ、それを指摘させていただきたいと思います。
ルカの福音書 22 章 14 節。
ールカ 22:14ー
その時刻が来て、イエスは席に着かれ、（12 人の）**使徒たちも一緒に座った。**
ールカ 22:15ー
イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。
ールカ 22:16ー
あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。
「あなたをこの世から連れ出す時」出エジプト記に戻り、いかに緊急性があったかを読んでみることをお勧めします。彼らは早く脱出しなければなりませんでした。「準備をしなさい。わたしはあなたを連れ出すからです。10 番目の災いで、わたしはあなたを連れ出します。準備をしなさい。出て行きなさい。」
私は出て行く準備はできています。私をここから出してくれるのですね？「そうです。しかし、2 つの事があります。血と体です。門柱の血は、その子羊の体を食べなければなりません。それはわたし（イエス）です。そして 3 つ目に、わたしはあなたを脱出させます。」
さて、恐れについて考えてみてください。私はイスラエル人です。私は今、想像を絶する恐ろしい 9 つの災いを目の当たりにしました。そして今、この第 10 の災いは究極のものです。つまり、長子の死です。その文化では、現在でも、長男が家名を継ぐということを理解しなければなりません。長男の名前

で父親が名乗ります。名誉なことです。実際、中東の私の文化では、私のことを牧師と呼ぶよりも、アブ・エリアスと呼ぶ方が名誉なことです。アブ。エリアスの父。私の長男です。アブ・エリアス、長男。それが 10 番目の災いとは。その恐怖はどうでしょう…想像を絶します。しかし、彼らには関係ありません。なぜでしょう？　彼らには子羊の血があるからです。子羊の体があるからです。子羊のゆえに、彼らは脱出しました。イエスはここでこれらの一つ一つに言及しています。

ールカ 22:17ー

そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

ここで二度目に言われます。

ールカ 22:18ー

あなたがたに言います。…まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

これを付け加えます。

…わたしがあなた方をこの世から連れ出して神の国が来る時まで、…

「ですから、準備していなさい。」エジプトでイスラエル人が過越しをした時のように、長子の死の時のように、イエスは、私たちが生きるために死んでくださった神の唯一の御子ではないでしょうか。そのつながりが興味深く、預言的、象徴的だと思いませんか？

「彼らの長子の死ですが、しかし、それはわたしの唯一の息子、わたしの長子の死です。」

ーヨハネ　3:16ー

…それは御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

あの教えを覚えていますか？　難しい教えでした。イエスが「わたしの肉を食べなければならない」と言われた時です。過越しの子羊です。文字通りの意味ではなく。

「その血を飲まなければならない」と。**（ヨハネ　6:53～）**

人々はイエスを見捨てました。**（ヨハネ　6:66）**

大勢の人が去り始めました。それは、人が立ち上がるようなもので…今はしないでください。トイレに行きたくなったとしても、我慢してください。もうすぐ終わります。それはこういう人々のようです。私がここに立って教えていると、人々が立ち上がり、出て行きます。イエスがこのことを話し始めたとき、人々はイエスに対してそうしました。「あなたは過越の子羊として、わたしの体を象徴的に食べなければならない。過越の子羊の血を象徴的に飲まなければなりません。そうしないと、あなたは救われません。あなたを救い、脱出させることもできません。あなたは子羊を、子羊の血を飲み、子羊の体を食べなければなりません。」

彼らには何も起こりませんでした。なんという信仰でしょう。神に与えられた想像力を使って、自分をその場面においてください。その夜、長男を亡くしたエジプト人の血の気が引くような悲鳴を想像できるでしょうか。その恐ろしさだけでも想像できますか？　その音は…、耳を塞いでしまいそうです。受け止められません。聞けません。私はその口調、うめき声がどんなものかわかります。私たちの娘ノエルが亡くなった時、私の妻は…それは、今まで聞いたことのない、また聞きたくもない叫びであり、私もそうでした。魂の奥底から湧いてくるものです。彼らはそれを聞きました。それは彼らの上に来ることはなく、彼らの上を過越しました。今夜のこの聖書の学びに、あなたはどんな恐れを持ってきましたか？　どんな恐れでしょう？　サタンができるのは、恐れの霊を与えてあなたを恐れさせることだけだ

からです。サタンはあなたに恐れて欲しいのです。ところで、これは興味深いのですが、私たちがヨブ記を節ごとに読んでいた時、その学びから、とても興味深いことがありました。サタンが神からヨブにすることを許可されたのに、そのことをヨブに警告しなかったことです。サタンはただ実行しました。
では、一緒に考えてください。もしサタンがあなたを脅し、恐怖で満たそうとしているのなら、
「お前の子どもを奪ってやる。お前の妻はお前から去っていく。お前の夫はお前から去っていく。お前は仕事を失い、すべてを失うだろう。」
恐れ、恐れ、恐れいや、サタンはそんなこと言いません。もし許可されれば、ただ実行します。分かりましたか？　ですから彼らには、「もし子羊の血を飲み、子羊の体を食べるなら、子羊のゆえに、わたしはあなたを連れ出す」という神の御言葉があります。私は大丈夫、安全です。ここから救い出されます。私はこのことから守られています。これは私を過越します。子羊の血と、子羊の体のゆえに。これが今夜、私たちがお祝いすることです。
ールカ 22:19ー
それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。（過越しの子羊の体）**わたしを覚えて、これを行いなさい。**
何を覚えればいいのでしょう？　これは何のお祝い、記念なのでしょうか？「わたしはあなたを連れ出します。準備していなさい。」イスラエル人は出て行く準備をしなければなりませんでした。「わたしはあなたを脱出させます」まず子羊（ラム肉）のディナーを食べないと。ごめんなさい。ちょっと砕けた言い方でしたが、本当です。ちなみに、私はラム肉が大好きです。私にラム肉料理を作らないでくださいね。大丈夫ですから。私には大切な姉妹がいて、ラムに関してはとても良くしてくれています。
今、その光景が目に浮かぶようです。教会の前にトラックが停まって、ラムの脚が運ばれてくるんですよ。私はラム肉が大好きで、ラム肉で育ちました。中東の人々にとってのラム肉は、アメリカ人にとっての牛肉のようなものです。だから皆さんは、「牛肉はどこ？」と言いますが、私たち（中東の人）は「ラム肉はどこ？」と言います。脱線しました。ここでポイントがあります。私たちには子羊の血と体が必要であり、それから連れ出されます。イエスが過越しの子羊です。過越しのお祝い、過越しの成就は、こう語ります。「よし、私たちはこれをしよう。」そして、「わたしがあなたがたを連れ出します。」
待ちきれません。恐れてはいけない。怖がらないでください。「ええ、でも…」「いや、あなたには子羊の血があります。あなたには子羊の体があります。わたしはあなたを連れ出します。何も恐れることはありません。あなたは安全です、守られています。あなたの住所は飛ばされます。あなたを飛ばします。あなたの上を過越します。あなたに降りかかることはありません。」
なぜでしょう？　あなたにはイエスがいるからです。あなたには子羊の血があるからです。あなたは血で覆われています。あなたには子羊の体があります。
「子羊の血、子羊の体があることを忘れ続けているようなので、それを覚えておいてほしいのです。わたしがあなたを連れ出すことを。あまり心地よくなりすぎないように。そこで落ち着きすぎないように。これがわたしがすることだと、覚えておいてください。次にこれを行うのは、これが子羊の婚礼の祝宴で成就する時です。大きなラム肉のディナーを用意していて、今まで食べたことのないようなラム肉が食べられます。」
ですから、パンは体を表しています。パッケージの上部を剥がし、パンを取って、少しお待ちください。

この象徴は…私たちが手にするものの象徴の重要性は、いくら強調してもしきれません。これは過越しの子羊、イエス・キリストの体です。私たちのために砕かれました。それを今夜お祝いしています。
それが、イスラエルの民のように、今夜、私たちが思い起こしていることです。
「あなたは安全です。わたしのゆえに、あなたは安全です。あなたを連れ出します。覚えていますね？忘れないために、わたしはあなたにこれを行うように与えます。何度でも行い、思い起こしてください。」
毎月第一木曜日とは言っておられません。それは実際に、イエスが言われたことではありません。ただあなたが望めば、毎日でもできるのです。「ただ行う時、わたしを覚えてこれを行いなさい。」記念として覚えておくために行います。神の子羊、神の犠牲の子羊、神の過越の子羊としてわたしがあなたのためにしたことを思い出すために。わたしの体を食べなさい。イスラエルの民が子羊の体を食べたように。」共にいただきましょう。
主よ、感謝します。主よ、あなたの体を過越の子羊として、過越の預言の成就として、私たちが食べ、共に分かち合い、思い出すことができることを感謝します。主よ、私たちにこのようなことを与えてくださったことを感謝します。私たちはそうする必要があり、そうするたびに、あなたが私たちのためにしてくださったことを覚えたいと思います。あなたが携挙で私たちをこの世から連れ出される時に、あなたがなさることを。主よ、感謝します。ルカは続けて書いています。
ールカ 22:20ー
食事の後、（イエスは）**杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。**
すべてが伏線であり、型であり、聖句の描写であったと言ってもいいでしょう。残りを剥がし、杯を持って少しお待ちください。エジプトにいるイスラエル人のための、この子羊の血、子羊は 4 日間検査し、しみや傷のないことを確認しなければなりませんでした。イエスが世の罪のために死ぬ神の過越の子羊としての資格を得るために、4 日間の裁判を受け、罪もなく、しみもなく、傷もないことがわかったのと同じように。
血を流すことなしに罪の赦しはありません。**（ヘブル　9:22）**
これは神の子羊の血です。文字通りの意味ではなく、その象徴として、私たちはいただくのです。そうすることで、私たちの人生の心の門柱に子羊の血があります。主がおられるところです。私たちは「主に心を捧げます」と言います。
「心尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」
（マタイ　12:30 参照）
私たちがいただく時、イエスを覚えていただきましょう。これは神の子羊の血であり、私たちは今夜それを象徴的に与かります。共にいただきましょう。イエス様、感謝します。カポノ上がって来て下さい。よろしければお立ちください。祈りと歌で締めくくります。
主よ、私たちが今夜ここで祝ったことは、ある意味で、あなたが私たちをこれほどまでに愛してくださるということを理解するには、あまりにも高いものです。
人のために命を捨てるほど、偉大な愛はありません。（ヨハネ　15:13 参照）
あなたがして下さったことです。私たちが今晩行ったことは、あなたが私たちのためにしてくださったことを祝うものでした。私たちがいただいた杯、私たちがいただいたパン、そして準備をすること。

なぜなら、あなたは私たちをこの世界のエジプトから救い出すために来られるからです。主よ、ありがとうございます。感謝します、感謝します。
主よ、もし今、恐怖にとらわれた人がいたら、まず、敵に責めさせることがないように祈ります。聖書のページに記録されている、あなたによって力強く用いられたどれだけの男女が、恐怖に怯え、恐れで満ちていたのでしょうか。聖書には、力強い人たち、使徒パウロでさえも人生に絶望し、恐れていたことが繰り返し書かれています。あなたはパウロに「恐れてはならない」と言われました。主よ、パウロがテモテに書いた「あなたは私たちに恐れの霊を与えておられない」 という言葉に焦点を当てます。
（II テモテ　1:7 参照）
私たちはあなたが代わりに与えてくださった、「力と愛と律された思考」をほとんど犠牲にしてしまいます。無制限に入り込もうとする思考、疑いの思考、恐れの思考を律し、捕らえ、捕虜にすることです。敵はただ私たちを恐怖で満たそうとしています。それができるのであれば、敵はすでにやっているはずです。しかし、やっていないのは、出来ないからです。あなたはすでに私たちに力と勝利を与えて下さっています。私たちは単なる勝利者ではなく、イエスであるあなたと、あなたが私たちのためにしてくださったことのゆえに、私たちは勝利者以上です。（ローマ　8:37）
だから主よ、今夜私たちが別々の道を歩むとき、家に帰るとき、あなたの愛という真理が、聖霊の力によって私たちの中に浸透し、私たちがそれを心に留めることができますように。私たちの心が、恐れではなく、信仰で満たされ、神の子羊であるあなたのゆえに、私たちは安全であり、救われたということで満たされることを祈ります。イエス様、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7